

平成29年度 あきたスマートカレッジ (報告)

あきたふるさと講座

E1～6：あきたの民俗・文化

会場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂

【趣旨】秋田の民俗等を学ぶことにより、先人が培ってきた秋田の文化遺産を再発見し、今後の生活に生かすための講座です。民謡・ことば・文化財など幅広いジャンルについて学ぶことができます。

講座記号	期 日	テーマ	講 師	参加者数
E 1	7月1日 (土)	秋田の民俗芸能と観光について ～地域住民の意識の高揚と文化財の理解～	ノースアジア大学経済学部 教授(雪国民俗館長) 鎌田 幸男氏	46
E 2	7月15日 (土)	秋田民謡のルーツ、そして流布を考える ～『おぼこ節』から『秋田おぼこ』へ～	あきた郷土芸能推進協議会 事務局長 麻生 正秋氏	46
E 3	8月5日 (土)	続・秋田のことばあれこれ ～文化の伝播とことば～	秋田大学名誉教授 佐藤 稔氏	56
E 4	9月2日 (土)	秋田の有形民俗文化財 ～モノの声をきく～	秋田県立博物館 副館長 高橋 正氏	55
E 5	9月30日 (土)	秋田の無形民俗文化財、特に民俗芸能について ～秋田の芸能の概要と魅力～	あきた芸術村民族芸術研究所 所長 小田島 清朗氏	50
E 6	11月11日 (土)	菅江真澄が見た秋田	秋田県立博物館 主任学芸主事 松山 修氏	73
合計				326名

9月2日に行われた、秋田県立博物館副館長の高橋正先生の講座の様子を報告します。「秋田の有形民俗文化財～モノの声をきく～」の演題で、県立博物館で所蔵している有形民俗文化財を手にとりながら、その物が生まれた背景、またどのような変遷をたどりながら博物館が所蔵するに至ったかをユーモアを交えて、わかりやすく講演していただきました。

写真で高橋正先生が持っている洗濯板は、表裏両面に凹凸がありますが、表面と裏面では凹凸が逆になっています。高橋先生もなぜ凹凸が逆になっているのかしばらくわからなかったそうですが、実際に使ったことがある人に話をうかがってその謎が解けたそうです。洗濯する物を持ちながら、板を裏返して使うので、表面と裏面の板では凹凸が逆になっているとのことでした。このように、実際に使ったことのある人や、所蔵したことがある人に話を聞くことが「モノの声」を聞くことになるそうです。

他にも、本来なら戦闘機材料になるはずだったジュラルミンの鍋を所蔵したいきさつ、また、唐箕に書いてあった購入日や値段からその当時の物価がわかるなどその物の背景について紹介していただきました。

受講者の方々も実際にジュラルミンの鍋や洗濯板を手にとって物の感触を確かめていました。



秋田県立博物館 副館長 高橋 正 氏